

2024年フクシマキャラバン報告書

「私達は非力ですが無力ではない」福島県民集会代表の女子大生による発言が印象的で、私達の日々の組合活動の思想に近く、改めて気が引き締まる思いで傍聴しました。関西から初参加させて頂いた今回のキャラバンは5日間という日程でしたが、これまでの価値観を抜本的に見直せた、非常に有意義な活動内容でした。

今年の3月11日をもって13年が経ちますが、未だ26,272人の方々が避難生活をされています。現在もなお続く原発による問題は、街やインフラの復興と共に風化の一途を辿りますが、しかしそれは風化こそが好都合と考える国や東電の資本主義の発想であり、そこには安心・安全に暮らす事を願う民意を無視した国策に、私達は一層団結し行政に行動していかねばならないと強く思いました。私の住む関西でも高浜原発があるので、今回学び得た知識を一人でも多く伝え、地元からも反原発を訴えていきたいと思えます。

要請行動では、行政側と対談する貴重な機会もあり、キャラバン隊から要請書を読み上げ市に提出した際も、「市としてどういった取り組みをされているのか？」と質問をした所、国からの方針により、市独自では対応していないであったり、中には原発の必要の有無に対し中立等と発言する担当者もいました。現在もトリチウムという核物質を含むALPS処理水の海洋放出が続きます。放射能汚染水は一度拡散してしまえば回収出来ません。メディアを利用し安全を公表していますが、その基準値には科学的根拠は無く、人体に及ぼす影響、危険性は現在も把握されていません。

IAEA(国際原子力機関)の発出した「国際的な安全基準に合致」という報告書の背景には科学的に感知していないという中身の伴わない出鱈目な内容でした。

キャラバン隊の仲間の中には当時学校に通えなかった、引越しを余儀なくされた、親族、友人を失った、福島ナンバーの車であるだけで給油を断られた等の生々しい実体験を聞き、このような悲惨な経験を今後させてはならない為にも、私自身が出来る事(仲間へ普及、署名活動、現地要請行動等)を一つずつでも行っていこうと決意しました。

この度は受け入れをして下さった東北地方の方々、街宣車の運転や現地行動に駆け付けてくださった関東地方の皆様、キャラバン自体は5日間でしたが、準備期間は非常に長く大変だったと思えます。本当に皆さんありがとうございました。この問題を風化させない為にも、仲間と共に経験した事を継続して取り組んでいきます。

関西地方神戸支部 青年部 吉村 知